

# 岡山県の地震 令和8年(2026年)2月

## 目 次

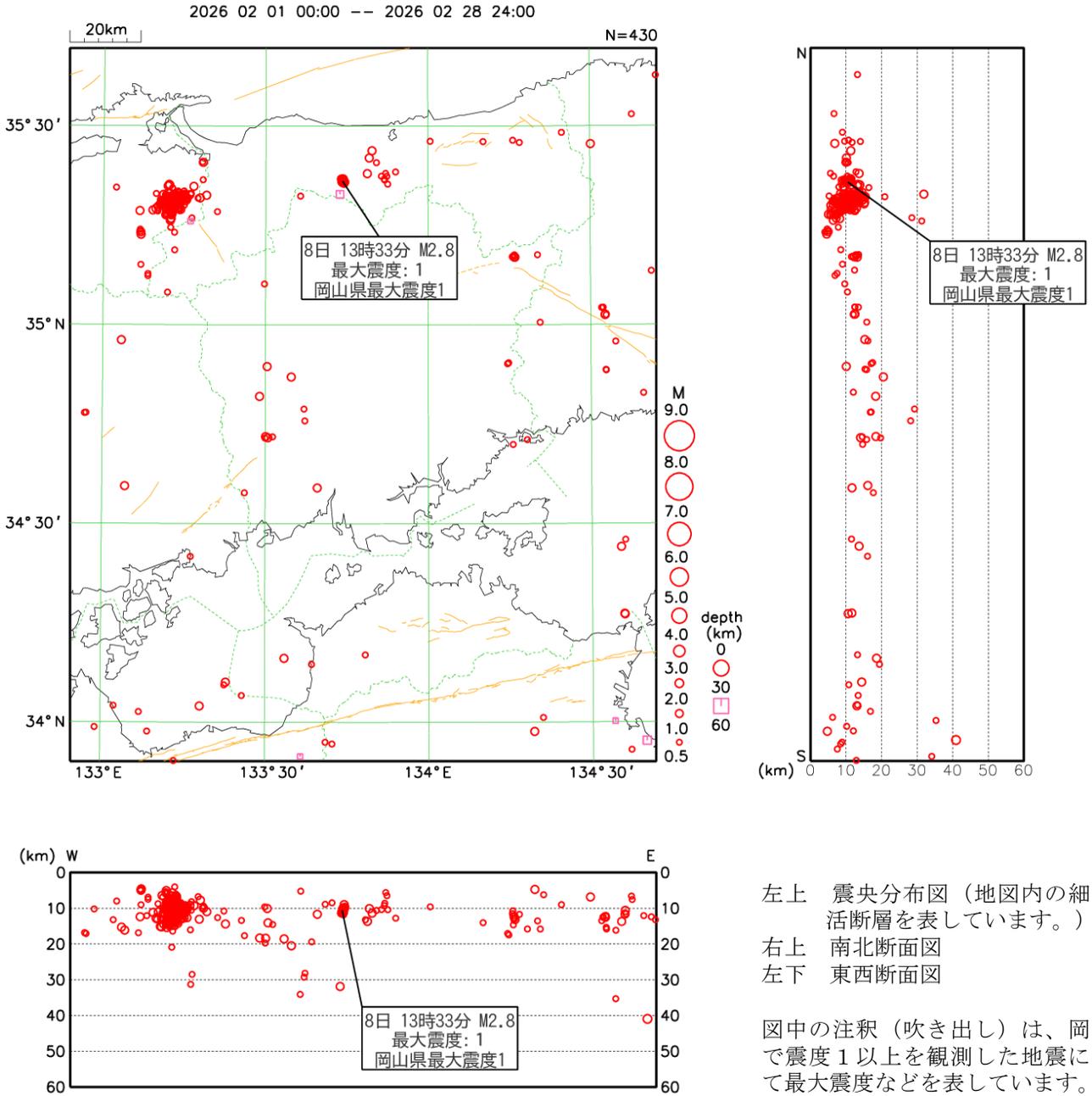
○岡山県及びその周辺の地震活動（2月）	
震央分布図及び断面図	… 1
概 況	… 1
岡山県において震度1以上を観測した地震の表	… 2
岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図	… 2
○地震防災メモ No.242	
陸域の浅い地震と活断層	… 3

- 「岡山県の地震」は、月1回発行し、岡山県及びその周辺の地震活動をお知らせするとともに、適宜、社会的関心の高い地震について解説します。また、「地震防災メモ」により地震、津波に対する防災知識の普及等に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。
- この資料の震源要素、震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。
- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。  
また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

岡山地方気象台

# 岡山県及びその周辺の地震活動(2月)

## 震央分布図及び断面図



左上 震央分布図 (地図内の細線は活断層を表しています。)

右上 南北断面図

左下 東西断面図

図中の注釈 (吹き出し) は、岡山県で震度1以上を観測した地震について最大震度などを表しています。

## 概況

・2月に岡山県で震度1以上の揺れが観測された地震は1回(前月:20回)でした。

## 岡山県において震度1以上を観測した地震の表(2月)

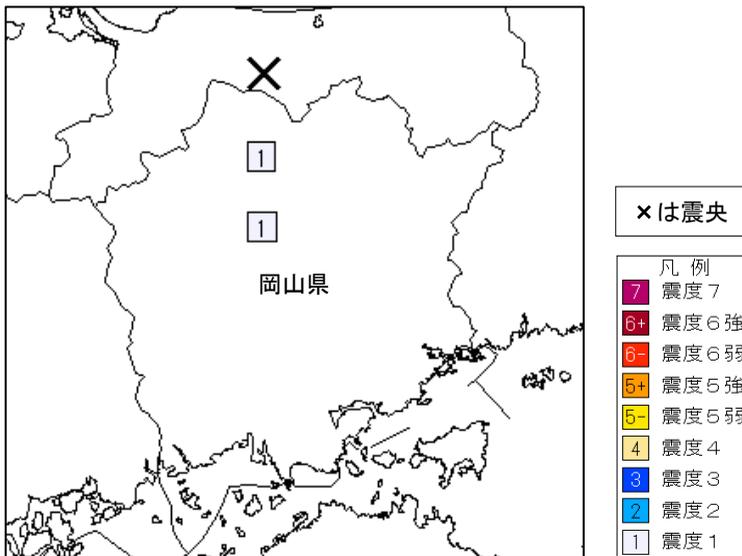
2026年02月08日13時33分 鳥取県中部 35° 21.5' N 133° 44.2' E 11km M2.8  
----- 地点震度 -----  
岡山県 震度 1: 真庭市下方\*, 真庭市禾津\*

- 注) 1 内容は暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。  
なお、地震データの確定値は『気象庁地震・火山月報(カタログ編)』に掲載されます。  
2 地名に\*印を付したものは、岡山県又は防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。  
なお、震度は気象庁震度階級表によるものです。

## 岡山県において震度1以上を観測した地震の震度分布図(2月)

2026年2月8日13時33分 鳥取県中部の地震

岡山県内観測点の震度分布



### <地震の概要>

8日13時33分 鳥取県中部の地震(深さ11km、M2.8)により、岡山県真庭市で震度1を観測しました。

## 陸域の浅い地震と活断層

### ○陸域の浅い地震

日本周辺では、海のプレートが陸のプレートに対して1年あたり数cm近づくことでプレート内部にはひずみが蓄えられており、それが限界に達したとき、岩盤がある面(断層)を境に急激に動くことで地震が発生します。このため、地震は、南海トラフ周辺のようなプレート境界やプレート内だけでなく、陸域の浅い所(深さ約20kmより浅い所)でも多く発生します。これを「陸域の浅い地震」と呼びます(図1)。

陸域の浅い地震は、プレート境界で発生する巨大地震に比べると規模は小さいことが多いのですが、震源が浅く、人が住む地域に近い場所で発生することが多いため、強い揺れにより大きな被害をもたらすことがあります。

### ○活断層

過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられている断層を「活断層」と言います。岡山県の周辺で発生した地震では、1943年の鳥取地震(最大震度6, マグニチュード7.2)は鹿野-吉岡断層が活動したもので、阪神・淡路大震災を引き起こした平成7年(1995年)兵庫県南部地震(最大震度7, マグニチュード7.3)は野島断層が活動したものです。

日本の周辺には約2,000もの活断層が知られていますが、それ以外にもまだ見つかっていない活断層があると言われていています。このため、平成12年(2000年)鳥取県西部地震(最大震度6強, マグニチュード7.3)のように、周辺に活断層が確認されていない場所でも陸域の浅い地震が発生し、被害が発生することがあります。

### ○岡山県周辺の陸域の浅い地震

こうした陸域の浅い地震に関する調査結果を防災に活かしてもらうため、政府の地震調査研究推進本部では、マグニチュード6.8以上の地震を引き起こす可能性がある活断層を地域毎に総合的に評価する「地域評価」を行っており、中国地域では、平成28年に活断層の分布・特徴、地質構造や地震活動の特性を基に、北部、東部、西部の3区域に分割し活断層で発生する地震の評価がなされています(図2)。

これによると、岡山県の大半が含まれる東部区域では、他区域と比べて活断層が少なく、過去の地震活動も活発ではないように見えます。

しかし、その北部にあたる北部区域では、活断層は東部区域と同じく少ないものの、前述の鳥取地震や平成12年(2000年)鳥取県西部地震、平成28年の鳥取県中部の地震(最大震度6弱, マグニチュード6.6)、今年1月の鳥根県東部の地震(最大震度5強, マグニチュード6.4)が発生するなど地震活動が活発で、今後も被害をもたらすような地震が発生する可能性が他区域より高いと評価されており、その被害は岡山県にも及ぶ可能性があります。また、そもそも活断層の活動の周期は数千年程度と長いため、東部区域においても過去に被害をもたらした地震が発生していないからといって安心ということはありません。

南海トラフ地震だけでなく、地震はいつどこで起こるかわからないものとして、日ごろから備えておくことが重要です。

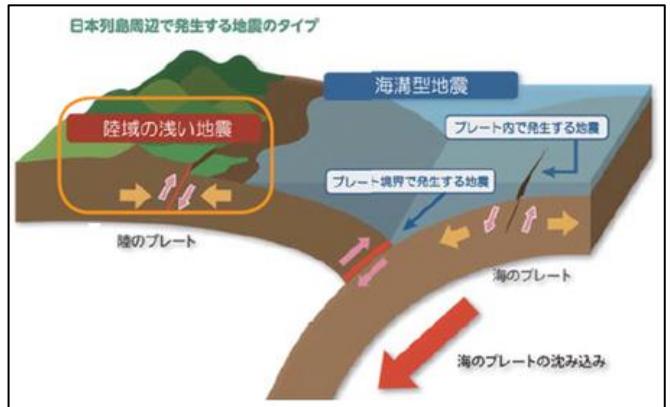


図1 日本周辺で発生する地震のタイプ  
文部科学省・気象庁パンフレット「活断層の地震に備える」

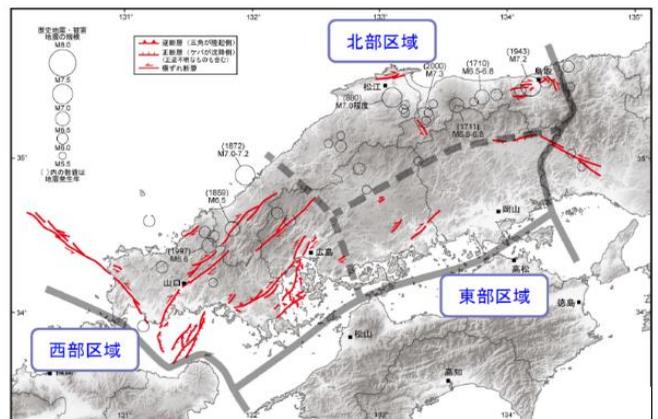


図2 中国地域の評価の対象とした活断層及び歴史地震・被害地震(M5.5以上の震央)  
平成28年 地震調査研究推進本部「中国地域の活断層の長期評価(第一版)」